

令和4年度 教育活動等に対する学校評価書

令和5年 3月29日

学校法人アイ・アイ学園 有度幼稚園 園長 垣本 範子  
 学校法人アイ・アイ学園 有度幼稚園 学校関係者評価委員長 花崎 年員

1 幼稚園の教育目標

<p>丈夫で生き生きと活動する子</p>	<p>1. 仲良く元気に遊ぶ子                  2. 心持の優しい思いやりのある子                  3. 考えて行動できる子</p>	<p>4. 礼儀正しくはきはきした子                  5. 工夫して新しい物を作り出そうとする子</p>
----------------------	--	---

2 本年度の重点目標（学校評価の具体的な目標や計画）

<p>感じる心を大切にしよう！ そして それを表現しよう</p>
----------------------------------

3 自己評価とそれに対する学校関係者評価

評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
	評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価	意見
1 保育の計画性	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>月案、週案を作成し、学年単位で読み合わせて、更に深めて保育を進めることができた。若い先生方も、主体的に保育の計画を立て実践した。1年を振り返ると、反省も多かったが、保育の中で子どもの成長を手ごたえとして感じる事ができた。</li> <li>建て替えや水害、コロナの影響もあり、森遊びなど計画変更を求められた行事もあったが、先生方でアイデアを出し合い、新しい形を見つけ出すことができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>建て替えやコロナの影響で中止や縮小になった行事もあり、残念に感じる事もあった。</li> <li>英語をカリキュラムの中に取り入れたのは、保護者としては嬉しい。やり方としても、レッスンという形では無く、生活の中で自然に英語とかかわる方法は評価できる。もっと、歌や言葉あそびなどももっと取り入れてほしい。</li> <li>英語は小学校でも導入しており、必須だと感じる。</li> </ul>
2 保育のあり方 幼児への対応	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>気になる子が増え、子どもたちの発達も個人差が大きいと感じ、保育の難しさが課題となっている。その様な中、子どもたちの安全安心を確実に保証するための取り組みとして有度幼稚園が取り組んできたバスや保育中の子どもの安全を確認する取り組み方法が、県の調査などを通じて改めて見直された。保護者や職員に少し手間をかけることになっても、確実に子どもの命を守るためには、今後も必要なことだと考える。</li> <li>複数担任制にシフトしたことで、子ども一人一人をよく見る事ができた。</li> <li>また、保育の内容も概ね目標とする水準を達成できたと感じている。</li> <li>先生の個人的な資質も影響するため、経験のある教師がしっかりサポートする体制を作る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>不適切な保育などの研修を積極的に取り組んでいたことが評価できる。</li> <li>先生方の自己評価は、もう少し自信を持って高くつけても良いのではないかと。</li> </ul>
3 教師としての 資質、能力、良識、適正	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の保育に一生懸命取り組み努力してきたという点は評価できた。しかし、先生個人の資質には個人差があり、そのことで保育を通じ子どもに与える影響は大きい。研修や職場でのコミュニケーションを通じて色々な考えを学び、先生方の豊かな人間性を育てる取り組みを続けていく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事が多いのは良いが、先生方の業務の負担や子どもへの負担を考えると、行事を見直すことも必要なのではないかと。</li> <li>たくさんの行事を経験をさせてくれる有度幼稚園を選んで入園させた。親子、兄弟で同じ経験ができたことがとても良い思い出となっている。それが代々子どもを入園させることにつながり、行事も代々受け継がれる結果になっているのではないかと。</li> </ul>
4 保護者への対応	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全対策や健康観察、挨拶など、多忙な業務をこなしながらも努力したと評価する。</li> <li>しかし、先生のさりげない言葉や、日々の仕事の進め方に配慮が行き届かず、保護者に不愉快な思いをさせた案件もあった。その内容について職場内で共通理解し、他人事と思わずに受け止め、全員で改善に務める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの担任でなくても挨拶をしてくれたり、具合が悪かったことなどを知っていて、声をかけてくれる。ミーティング等で情報を共有してくれている。</li> <li>先生方が明るい挨拶をしてくれる。園の関係者でなくても、近隣の人や交流館を利用する人たちにも挨拶をしてきて嬉しい。</li> <li>面接などが減り、先生と話ができなかった。</li> <li>面接など改まった場所を設けなくても、お迎えなどのちょっとした時に子どもの話を聞けると嬉しい。先生方皆がそういう力量を 備えてもらえると良い。</li> </ul>
5 地域の自然や 社会とのかかわり	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月の水害により、平沢の里山が崩れ遊べなくなりましたが、遊木の森で新たに遊びを開拓し、子どもたちと遊びを広げた。</li> <li>地域の活動にあまり貢献できなかった。</li> <li>港祭りは、年長児と有志の小学生と大人で参加できた。次年度は、年中児も参加する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節感を感じられる雪遊びやお月見会がなくなってしまったことは残念である。</li> <li>教育は、本来先生達だけに任せるのではなく、親も主体的にかかわることで、子どもにとってよりよい教育となる。良い教育をする幼稚園に育てるのも保護者の大切な役割だと考える。</li> </ul>
6 研修と研究	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>対面式の研修が減った事、また、研修の参加募集人数も限られてしまっているため、外部の研修に出る機会が減った。次年度から、1年間の計画を見直し、職員が平等に参加できるように努力する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>共働き世帯の増加に伴い、保育時間の長い子供が増え、教員の研修も難しくなっていると聞いている。ボランティアなどを開拓してみてもどうか。</li> </ul>
7 外部アンケート	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>概ね良い評価をいただいた。先生方は、厳しい安全管理が求められる中で、多忙な業務を本当に努力して進めた1年だったと振り返る。しかし、保護者方の評価の中には更なる要望も多い。また、子ども一人一人の思いに気づいてあげられなかったと感じるケースもある。そのことに真摯に向き合い改善に努めていきたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>概ね良い評価をいただいたが、やはりコロナや建て替えに伴い行事が中止されたり、変更されたりしたことを残念に感じる保護者の方からの意見も複数あった。何故そのようになったのか、又その行事で育つ力を別の形で達成できるように考えて取り組んでいることなどを、もう少し丁寧に説明することで理解してもらえるのではないかと。</li> </ul>

\*結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが、成果が十分でない D 取り組みが不十分である。

4 本年度の重点目標の総合的な評価結果

<p>重点目標である「感じる心を大切にしよう！ そして それを表現しよう」は、日々の保育計画の中心におかれ、その思いを色々な形で表現しようと努力してきた結果、概ね目標は達成できた。</p>
--

5 今後取り組むべき課題

課題と具体的な取り組み方法

先生方の資質向上が、保育の資質向上に直結していくため、メンター制度に対する知識を深め、更なる意識改革を進め、お互いの良い所を伸ばす、又は欠点は補うことで、充実した質の高い保育と、明るく元気なたくましい子どもを育てる、行事の多い有度幼稚園の保育を実行していく。

6 学校評価委員より総合的コメント

- ・ 経験のある先生と若い先生がバランス良く配置され、それぞれの良い所が発揮されたり、苦手な部分を補う体制が確立されていくと、更に充実した教育ができる。
- ・ 幼児期は環境や成育歴、生まれ月によっても発達に差があるものだが、有度幼稚園の先生方は、子どもだけでなく親も丸ごと受け入れ、寄り添ってくれ、一緒に成長させてくれる。園の風土や文化がそういうものを持っており、それが代々先生方に受け継がれている。